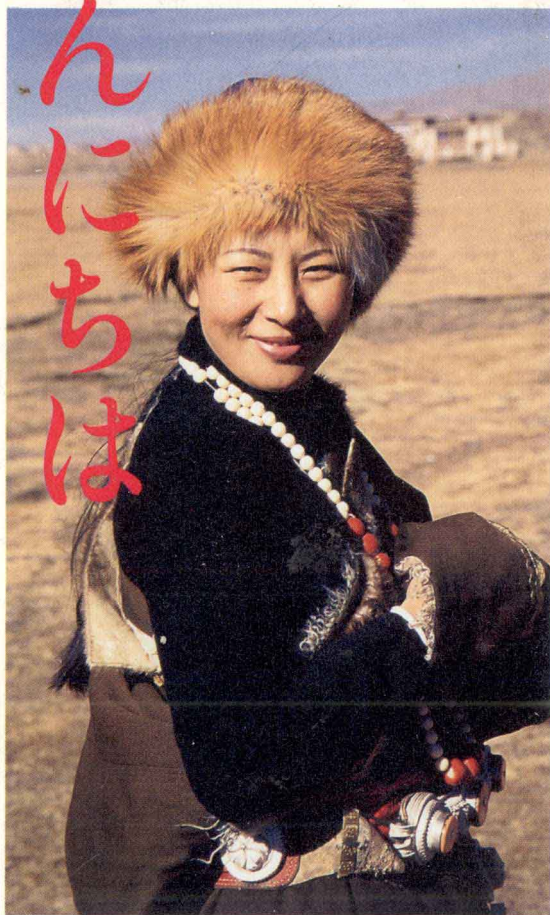


チベットから嫁に来た
私の物語

Bema Yangjan
バイマーヤンジン



こんにちは

バイマーヤンジンです。

チベットから嫁に来た
私の物語



こんにちは
バイマーヤンジンです。

Bema Yangjian
バイマーヤンジン

こんにちはバイマーヤンジンです。
——チベットから嫁に来た私の物語——

平成十五年十月十五日第一刷発行

平成十五年十二月五日第二刷発行

著者 バイマーヤンジン

発行者 藤尾秀昭

発行所 致知出版社

〒107-0062 東京都港区南青山六の一の二十三

TEL (〇三) 三四〇九・五六三二

印刷・製本 図書印刷株式会社

落丁・乱丁はお取替え致します。

検印廃止

©Bema Yangjan 2003 Printed in Japan

ISBN4-88474-659-7 C0095

ホームページ <http://www.chichi.co.jp>

Eメール books@chichi.co.jp

こんにちはバイマールヤンジンです。

推薦のことば

「物で栄えて心で滅ぶ」と云われる日本！ 家族・民族・国に感謝と誇りを持ち、恩返しに故郷チベットに「学校建設」を続けるヤンジンさんの講演と歌に、私は感動しました。

文部科学大臣・衆議院議員 河村建夫

バイマールヤンジンさんは素敵な人です。歌も素晴らしいし、話も素晴らしい。バイマールヤンジンさんの話には日本人が失った心のふるさがある。日本のすべての子供たちに聞かせてあげたい。

ハーバード大学名誉教授・数学者 広中平祐

はじめに

この本をお手元に取りつていただき、どうもありがとうございます。

大学で声楽を専攻した私は、歌手としてコンサートでよくチベット民謡を歌っています。

ただ、日本の皆様はチベットのこと自体あまりご存じではないので、少しでも理解していただこうと、いつも歌う前にチベットの生活習慣、文化、教育、経済のことなどをお話するようにしています。お陰さまで、行く先々で好評を得て、いまでは日本各地より講演の依頼もたくさんくるようになりました。

先日、致知出版社主催の講演会にお招きいただき、お話し致しましたところ、同社の藤尾社長よりぜひこの講演を本にして出版するように勧められました。

しかし、私は日本での経験もまだまだ少なく、薄学のため各方面での知識ありません。

本を出すなど、私にとって恐れ多いことです。社長のせっかくのご厚意ではありましたが、最初はお断りさせていただきました。

藤尾社長は情熱のかたまりのような方です。

「この本はきっと現代日本の社会に役に立つ。幸せのあり方、家族のあ

り方についても考えさせられるととてもいい内容だ。いま一度前向きに考えてもらえないだろうか」と社長自ら私を説得するため、わざわざ大阪までお越しくださいました。

実は、大阪に來られる数日前、社長はのどの手術をされて、お医者さまから声を出すことを止められていました。けれども、私と会った瞬間、社長はそんなことは氣にもかけず、この本にかける思いを一生懸命話してくださいました。

私は藤尾社長の熱意とその姿勢に感動し、講演内容を本にすることに同意し、出版に関してもおまかせすることに致しました。

この講演録の中で、私は九年におよぶ日本の生活で感じたことを率直に申し上げました。

講演はテーマと時間が限られており、言葉遣いもところどころ雑になり、内容によっては自分が伝えたいことを完全に述べることもできませんでした。

また、身振り手振りでしゃべったものを文章にすると、その雰囲気もずいぶん違ってきます。

どうか大きなお心でご覧くださいませ。

私の話が皆様の人生に少しでもお役に立てばうれしいです。

なお、この本の収益はすべてチベットの学校建設基金に充てさせていただきます。

いままで私を支えていただきました日本の皆様に感謝の気持ちを込めて。

二〇〇三年八月 チベット、ラサにて

バイマーヤンジン

こんにちはバイマールヤンジンです。●目次

推薦のことば（河村建夫・広中平祐）

2

はじめに

3

「モンゴル之歌はいいですね」

13

チュパで子育て

19

チベットのバス

25

大阪よりちよつと寒い

30

麦こがしとヤクの糞

38

ダライ・ラマの親戚？

44

ヤクや羊と文通するわけではない

52

公衆トイレで受験勉強

58

「チベットってすばらしいところですね」

67

大阪弁は教科書に載っていない

71

子育ての前に牛育て

77

「お魚が欲しい人には捕る方法を教えなさい」

82

日本の学校では驚くことがいっぱい

87

大人はどういう態度を示すのか

97

夢を持たない高校生

104

生まれて初めて見た親子喧嘩

108

家の中での温かい一言

114

豊かさに感謝の気持ちを

119

おわりに

122

写真 ◆ 齋藤秀樹

装幀 ◆ 川上成夫

編集協力 ◆ 柏木孝之

みなはん、こんにちは（笑）。

今日は雨の中、わざわざ話を聞きにきていただきましてありがとうございます。
ざいます。

私は最近、町とか村とか郡の主催が多くて、ほとんど地方回りでしたが、今日はやっと東京進出をはたせまして、きのうからわくわくしておりました。

こういうすてきな出会いの機会をつくっていただきました致知出版社の皆様本当に感謝しております。

私と致知出版社の出会いというと、ある日、致知出版社から大阪の事務所に取材をさせていただきたいという電話がありました。

実は私が日本に来たばかりのとき、最初に私を載せてくださったのは

ある有名な大衆紙でした。

その日はもう待って待って、やっと駅でその新聞を買うと、私の写真が大きく載っていました。

でも、次のページを開くと、あまり服も着ていない女の子の写真がいっぱい載っています（笑）。なんか変な新聞に載せられてしまったとびつくりしました。

ですから今回、「チチ」という言葉を聞いて、またその方面ではないかと思いましたので（笑）、確認するためまず雑誌を送っていただきました。

開いてみると、なんか堅そうなおじ様ばかりが載っていました（笑）。

少しずつ読んでみると、現代日本社会に存在している各方面の問題を取り上げ、そしてとても真剣に議論をしているたぐさんの素晴らしい文章に感動をして、喜んで取材を受けました。

その記事のお陰で、たぐさんのご縁をいただきました。いまでは致知出版社に大変感謝しております。

「モンゴルの歌はいいですね」

皆さん、チベットをご存じですか。

私はチベットで生まれて、チベットで育ちましたから、世界で一番有名なところはチベットだと思っていました。

日本に来る前は、日本も仏教の国だということで、きっとチベットの
ことをご存じなのではないかと思いました。

しかし、日本に来てみると、意外にチベットのことを知られていま
せん。

たとえば、私は民族衣装を着ないと日本人と間違えられます。

「いや違います。外国人よ」

「へえー外人さんですか。どこから来はったんですか」

私はもう自信満々で

「チベットからまいりました」

と言うと、

「へえ？ どのへんですか。モンゴルですか」(笑)